

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4097900015		
法人名	医療法人 松本医院		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 朝日苑		
所在地	福岡県三潁郡大木町大藪186-1 (電話) 0944-75-8520		
自己評価作成日	平成 27 年 5 月 31 日	評価結果確定日	平成 27 年 8 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 人権教育、啓発活動の観点から会議の重要性を上げ、毎月の各種ミーティング、役職会議、全体会議を欠かさず行い、①人の話を心で聞く。②一方的な決めつけをしない。③互いに学び合う。これらをトレーニングしながら情報を共有していく。
2. 倫理規定としては朝日苑の品格を大切にすること。その中で①約束を守る。②危険な行動を慎む。③謙虚である。これらを旨としている。
3. 六つの業務（管理、計画作成、介護、看護、調理、防火防災）と四つの活動（地域交流、年間行事、委員会、研修計画）を柱として全職員がそれぞれ活躍の場を持ち、活達である事。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 27 年 6 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園風景の中に、広い敷地を活かし南国のような雰囲気のあるオレンジの屋根の平屋建てに同法人の事業所が隣接されている。共に明るく楽しさと気軽に立ち寄りやすい、親しみを感じさせる趣がある。事業所の運営や体制づくりについて、既成の考えにとらわれず、利用者及び家族と共に考えるという視点は、法人全体の理念からも感じ取ることができる。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が共有できるよう理念・実践キーワード・今月の目標を掲げ、毎朝申し送り時に唱和を行い、入居者様の尊厳を守り、安心、安全な生活が送れるよう心掛けている。また毎月のミーティングで今月の目標を話し合っている。	事業所理念として独自の理念をつくり、利用者や家族、町内の住民に対しての言葉掛けや、日々のサービスに取り組んで、申し送り時に確認、共有し理念の思いを実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、案内による公民館行事や地域の行事にも参加している。また地域の広報誌を届けて頂いている。保育園や小学校の慰問、中学校の職場体験の受入れなど積極的に行い日々交流を深めている。二年に一度、夏まつりを行いポスターを地域施設に貼らせて頂き、地域の方へ案内して参加を呼びかけ交流に努めている。	自治会活動で地域の夜回りに年2回参加したり、町内の文化祭に利用者の作品を出展し、皆で見に出掛けている。事業所の隣にある、いちごハウスへいちご狩りに行ったり、おすそ分けを頂いたりされている。近隣の保育園のお遊戯や小学生の歌や笛の演奏、中学生の職場体験などの交流をされている。また、事業所で2年に1度開催される夏祭りのポスターをスーパーなどに掲示し地域の方へ参加の声掛けも行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の介護実践の在り方をご家族や地域の方々へ絶やす事なく発信し続ける為、ホームページの開設や季節ごとの新聞を発行している。保育園、小学校の慰問、中学校、専門学校の実習やボランティア活動などの受入れも行っている。地域の自治会に加入し活動の案内を受け参加の機会を保っている。又、役場のイベントホールでの作品展に貼り絵を出品させて頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各々の立場で真剣に会議に向き合い、お茶を飲みながら和気あいあいと1時間半を過ごして頂いている。議題に委員様からひと言という項目を設けたところ、より活発にお話が聞けるようになった。委員様それぞれの立場からの活発なご意見を頂いている。最近ではボランティアの紹介を頂き苑への訪問がなくなった。平成27年度報酬改定に伴い小規模多機能型居宅介護での外部評価に於いて運営推進会議及び委員様をこれまでの評価機構と位置づけることが決定し早速実施に向け取り組んでいる。	運営推進会議を2か月に1回開催し、利用者の家族、町職員、包括職員、町民代表らが、参加している。利用者サービスの実践を報告したり、事業所側から参加者への問いかけに工夫し、活発な意見交換の場として、サービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と利用者様の情報や部屋の空き状況を報告している。またケアマネ連絡会などで情報交換を行っている。運営推進会議や市町村に出向いたときに相談したりして情報収集を行いサービスの質の向上に活かしている。	市町村関係者とは、運営推進会議を通して親交を図り、日常のやり取りは電話で行い、空室状況を伝えたり、感染症発生情報の連絡を受けたり、ボランティアの紹介など情報交換を密に行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お一人おひとりの身体能力、認知度、更には心理的問題行動に対応する為、身体拘束をしない事を前提とした介護支援を徹底している。その為には担当者を中心とした見守り、情報の共有、コミュニケーションを絶やさず行う事や定期的なミーティングでは、状態変化に伴うリスクマネジメントに取り組んでいる。	身体拘束の指針に基づき、日中居室や玄関にも施錠はしていない。利用者の外出傾向があれば、付き添いにも対応している。マニュアルを備え、内部、外部の研修を実践、テキスト、研修記録、報告書がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的な関わりのなかで虐待に繋がるような言動など職員同士で注意し未然に防げるよう努めている。また定期的に苑内勉強会で虐待防止の周知徹底を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑では、まだ事例はないが苑内勉強会や研修参加にて権利擁護に関する理解に努めている。またいつ相談があってもいいようパンフレットを常備している。	職員は外部、内部の研修を実施しており、テキストやパンフレット、研修記録もある。家族に対して制度の説明を行っていない。	利用者家族に対して、契約時や来所時に積極的に制度について説明をしていただきたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を一つ一つ分かりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されたか確認を行い、納得された上で同意が得られるよう努めている。又、やむを得ず利用料の変更に至った時は、お手紙にて説明と同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からは面会時など常日頃から意見や要望がないか伺い、意見や要望の内容を会議にて検討し、出来る限り運営に反映させる事ができるよう努めている。又、重要事項説明書に外部の相談窓口を記載しており、契約時に説明している。	利用者とは日頃の会話の中から、思いを伝えやすい雰囲気や大事にして、関係づくりを行っている。家族会はないが意見箱は設置している。家族とは来所時や運営推進会議の時に家族の意見を聞き、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職者会議によって討議し、議題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行う。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使うべく隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行うことによりマンネリ化しないリズミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上に繋げている。	管理者は全体会議で職員からの意見を聞いたり、個人面談時や日頃のコミュニケーションを大切に、運営に反映させている。職員の異動は無く、離職の際の引継ぎは十分に時間を確保し、職員の定着につながっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則にのっとった健全な運営に努めている。例えば勤務の中に各自希望の研修や有休が取れる人員配置をし、なお処遇改善交付金の活用、水準を下回らない給与、ボーナスに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用に当たっては経験と意欲を最重要視している。新人職員に対しては各棟の新人研修要綱に添って介護責任者を中心に担当者が指導にあたり、1ヶ月程度で一般業務から利用者様の個別対応まで細かに伝えるOJT、常に現状に即した要綱を会議で検討し、フレッシュな内容に心がけ、研修を繰り返しながら周知を行うoffOJTを支援して能力開発に努めている。	採用選考では、性別や年齢の制限は設けていない。日頃からすべてに平等になるように意識して職員との信頼関係を築き、安心して働くことができる環境になるように努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人権教育、啓発活動における介護の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。	全職員を対象にした、内部、外部の研修を行っており、テキストやパンフレット、研修の記録、報告がありケアで実践できている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修としては円滑な業務のために必要と思われる研修を定め、月1回の全体会議の中で行う。又、専門講師を招いて1時間程度の研修会を年に数回計画している。一方苑外研修としては年間を通じ個人の希望と勤務に応じた研修と全職員が受ける事のできるシステムを確立している。受講者は1週間以内にレポートを書き、全体会議で発表している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは個別に相互の相談、アドバイスをし連携を保っている。ケアマネージャー連絡会ではそれぞれの他事業所を訪問し実状を見学し質疑応答の場が設けられ活発な討議がなされている。また代表者は近隣の同郷代表者と交流する機会を保っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用される前に必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安なことなどあるかどうか、また、本人様の要望等を伺い、情報収集を行っている。お困り事や不安な事に関しては、お話をゆっくり傾聴し、受容する事で安心して頂く事ができるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来苑時、ご家族からこれまでの生活歴や家庭での状態、思いや希望等を伺い、よりよい信頼関係が築けるよう職員間で十分に検討し、出来る限り思いや希望に沿ったサービス提供ができるように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時、本人様やご家族の意向やニーズをよく伺い、“今一番に求められるサービスは何なのか”を見極め、小規模多機能型居宅介護サービスの利用なども含めて対応するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者様一人ひとりの能力や要望に応じてトレイ拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをして頂き、ありがとうございます・申し訳ございません・お疲れ様でしたなどの言葉のコミュニケーションも大切にしている。また一緒に買い物に行き入居者様が買いたい物を一緒に選んだりする事でよりよい関係が築けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月入居者様の日頃の様子を書いた手紙を出したり、面会時には日々の状況や状態を伝えている。また行事等へ参加して頂く事により入居者様とご家族様との信頼関係が築けるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族の方が気持ち良く来苑して頂けるよう挨拶に心掛け明るい雰囲気作りに努めている。また併設した通いの利用者様に知人・友人が来苑時には面会されるか声かけし交流の機会を持てるよう支援している。	日頃より利用者の知人が会いに来られたり、利用から行かれたり、電話で交流ができるように支援し、馴染みの関係が継続できるように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士好きな時に会話を楽しまれている。楽しく会話ができるよう職員も一緒に楽しんでいる。疎通が取り難い方でも同じ空間に参加して頂き雰囲気を楽しんで頂いている。また入居者様同士協力してパズルをされる姿もみられる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡し、本人様の経過を伺ったり、面会に行ったりすることで関係が途切れないよう努めている。また他施設へ移られる際は詳しい情報提供をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様との日々の会話の中から本人様の希望や意向を会話や表情等から把握できるように努めている。意思の疎通が困難な方はご家族との話の中から少しでも多くの情報を収集し、出来る限り本人様の意思に添えるように努めている。食前の嚥下体操を取り入れたところ今まで関心を示さなかった入居者様が楽しみに待たれるようになった。	日々の生活の中で管理者や職員は利用者の表情、行動から思いを汲み取り、積極的に声を掛け、希望、意向の把握に努めている。思いや希望の強い利用者に対して、本人、家族からの生活歴の把握に力を入れ、本人本位の支援が行われるよう取り組んでいる。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の作成やご家族からの情報を得て、生活歴や生活環境の把握に努めている。安心して生活ができるように馴染みの物を持参して頂き、個々のペースで生活出来るように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でみつけた有する力などを申し送っている。毎月のミーティングの中で各担当から留意点を報告し意見を出し合うことで情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービス内容に反映させるよう努めている。又、カンファレンスで本人様にとって今、何が必要なのかを検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画の作成ができるよう心掛けている。	介護計画は半年毎に見直し、家族へ説明して、同意の署名、捺印を頂いている。サービスが計画通りに行われるよう、独自に作成したケアプラン実施表で毎日確認することで、利用者がより良く暮らせるよう取り組んでいる。月1回のカンファレンス会議で評価を行い、現状に即した個別の介護計画であるか確認している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事により統一したケアを提供できるよう努めている。又、個人記録やケアプラン実行表を基に、介護計画の見直しや評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の要望に応じて通院時の送迎や買物支援等を行っている。また、状況に応じて医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会での行事参加や保育園・小学校の慰問来苑、買い物支援、訪問散髪利用や近所の好意によるイチゴ狩り参加など地域との交流を深め、豊かな暮らしを過ごして頂けるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の関わりの中での気づきや変化で受診が必要となる時、本人様・ご家族の希望される医療機関が受けられるよう、かかりつけ医への情報提供や円滑な受診・往診が出来るよう支援している。またご家族様への日常生活での状態報告を行いご家族との関係を築き意見・要望を尋ね、受診介助が必要な場合は受診支援も行っている。	通院の支援は職員が行い、8名の方が利用開始前のかかりつけ医との関係を継続中である。通院結果の報告を家族の面会時や電話で行い連携を図っている。病状の急変時など緊急を要する時は職員と家族でかかりつけ医を訪問する。直接医師の意見を聞き、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ心身状態の変化や毎日のバイタル測定等での変化や疑問・気づきがあればその都度、看護師へ報告し必要に応じてご家族やかかりつけ医へ相談・報告し、必要時は受診支援も行っている。状態変化時の連絡体制も整っており円滑な支援が出来るよう努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行ったり、面会に伺う等して状態把握に努めている。又、退院時には、ご家族や病院と連絡を取り合い、速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケア・看取り介護について苑で出来る対応をご家族様へ説明し、本人様やご家族様の意向を大切に、かかりつけ医・管理者・ケアマネ・看護師・職員・ご家族様・本人との話し合いを行い方針を決め、共有したケアで安心した日々をより良く過ごして頂けるよう支援している。また状態変化の度に意向を再確認している。	重度化及び看取りに関する事業所の指針がある。かかりつけ医が重度化、看取りと判断した時に、事業所として支援できることの説明と意志の確認を、本人、家族へ継続的に行い、家族が最期に立ち会えるよう宿泊できる体制を整え、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時はマニュアルに沿って医師・看護師・職員間での連絡体制が出来ている。又、苑内勉強会や消防署主催の救急手当・蘇生技術等の研修や知識向上の研修にも参加し、実際の現場で活かせるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員の少ない夜間想定で年2回行い、火元は当日、消防署員様より設定して頂き訓練後は消防署員より講評を頂き確実な避難誘導が出来るよう取り組んでいる。当事業所のみでの災害時には地域の公民館を一時避難所として協力を得ている。避難訓練の際には運営推進委員様や地域の方にも声掛けし参加や見学を促している。自家発電機や食料・飲料水を準備している。	災害に対するマニュアルが整備され、2ヶ月に1回夜間を想定した避難訓練を行っている。年2回消防署の立会いがあり、今年は発煙装置により現実に近い避難訓練が行われた。区長や民生委員、市職員、包括支援センターの参加もあり、地域との協力体制を築いている。食料、備品も施設内に保管されており、災害に備えている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苑内勉強会でプライバシーの保護の研修を行い全職員が尊厳に対する意識を心掛けている。また言葉掛けでは親しみのある言葉で失礼な言葉掛けにならないよう注意している。	排泄を失敗されても「病院へ行くので着替えましょう」と声を掛け、本人の人格を大切にしている。家族から「布団に横になっていても本人の刺激になるよう居室の扉を開けたままにして欲しい」との意向により、入口にのれんを掛け、家族の意向を尊重しながらも、本人のプライバシーが保たれるよう本人本位の支援が行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で入居者様と関わりを持ち、表情や言動等から本人様の思い、希望を把握できるように努めている。又、ジェスチャーや寄り添った声掛けを行い希望や思いを引き出せるよう取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事・嗜好品など個々のペースや意向を尊重して希望に添って過ごして頂いている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、髭剃り、整髪等の身だしなみは出来ない部分をお手伝いし、髪型は月1回の訪問散髪にてカットをされている。好きな服を買いに行ったり、更衣時には本人の希望する服を選んでもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食事を取って頂くために、カレーが嫌いな方には肉じゃが・酢の物が嫌いな方には卵焼きのように個々が満足できるように提供している。また行事ごとでは行事にあった料理や誕生会では誕生者の希望されるものを作りを提供している。	フルーツバイキングを開催したり、行事食の時は弁当の容器に変更するなど食事が楽しみとなる工夫がなされている。利用者の咀嚼・嚥下能力に応じて支援が行われ、さらにより良い支援を目指し、機能向上の検討が行われている。年2回嗜好調査を行い利用者の好みを再確認し、結果を家族へ知らせ情報の共有に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本1日1000ccの水分補給を目標にして水分の量が少ない人には好きな飲み物（コーンスープ・カルピスなど）を提供し、十分に水分補給できるよう支援している。また定期的に体重測定を行い必要に応じて個別に栄養状態の管理をしている。また個々の状態に合わせた食器や食事形態を工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・実施・介助を行っている。洗面台まで行かれない方は自席にて口腔ケアを促している。うがい水はお茶の滅菌作用を活用し口腔内の清潔を保つようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄チェック表により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人様に合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている。	利用者の動作を観察し、排泄の兆候を把握している。失敗による不快を防ぐと共に、トイレでの排泄が続けられるよう支援している。利用者毎の排泄記録表に水分、食事摂取量をチェックし、In、outの整合性も重視した管理が行われている。紙おむつのメーカーの方と尿量に応じた、おむつ、パットの選定を行い、尿漏れによる不快を防ぐための検討が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄・食事・水分摂取量等のチェックを行い、排泄習慣を把握し、自然排便を促すためラジオ体操やレク・散歩など身体を動かす機会を多く持つよう心掛けている。また食事には野菜、穀物、果物等の食物繊維が多く含まれる食品を取り入れ、必要時には医師へ相談し便秘予防にも努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者様一人ひとりに合った入浴の声掛けを行っている。本人様の希望に応じてスタッフが替わり対応し、体調不良により入浴できない場合は清拭や洗髪を行っている。又、一人ひとりお湯をいれかえて清潔な入浴を楽しんでもらっている。	週3回入浴が行われ、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて、毎日入浴できる体制を整えている。入浴を拒む方には「先生が往診に来られますよ」など利用者の心情を察した声掛けを行い、安心して入浴が行われる配慮がなされている。湯船に薔薇やゆずを浮かべ入浴が楽しみとなる工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを崩さないようラジオ体操や入浴、レクリエーション、午睡等、本人様のペースで生活して頂けるよう支援している。又、寝具の天日干しやシーツ交換を定期的に行い、室温にも配慮し気持ちよく安眠できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報により用法・用量・目的・副作用等の情報をいつでも確認できるよう綴っている。また誤薬や飲み忘れがない様一包化して日付・氏名・服用時を表記して頂いている。準備時や配布時に確認と声を出して読み上げることで誤薬防止に努めている。確実な服薬で日常の状態変化を把握し必要時にはかかりつけ医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トレー拭きや洗濯物量・みかんの皮むきなど入居者様に合った仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えることにより張り合いを感じて頂いている。また将棋の相手をしたり嗜好品を希望されるときは一緒に買い物に行くなどして気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	恒例のバスハイクでは家族にも参加して頂き、全入居者様貸切りバスで豪華な食事や温泉を楽しんで頂いている。また、さげもんや藤・ゆりなどを見物に行ったり苑周囲を散歩するなどして気分転換を図っている。	散歩や買い物の意向があれば、その都度外出できるよう対応し、五感刺激が得られるよう努めている。地域との関係が継続できるよう、家族の支援を受けお寺へのお参りや外食へ出掛けられている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者様は職員と一緒に買い物に出掛けて好きな物を購入して頂いたり、依頼された時は職員が代行で買い物を行っている。ご家族から預かった金銭は苑で管理しており、買い物を頼まれた時はそのお金から購入し、お小遣い帳を作成してご家族に金銭使用状況を報告している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話の希望があった場合やご家族よりかかってきたときは子機を使用して居室で話して頂きプライバシーに配慮しながら話しやすい環境を作っている。手紙や年賀状を書かれた時は職員が代行で投函している。手紙が届いた時は本人様へ手渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節に合った物を飾りを環境設定している。毎食後フロアの掃除やトイレに行かれた後は次の方が心地よく使用できるように掃除・消臭を行い、共用空間の清潔を心がけている。また建物の構造では、日当たりが良いように窓を多く設けてあり二重ガラスの使用と高気密換気システムにより、温度、湿度、臭いのコントロールを行うことで快適な室内環境となっている。	食堂兼談話室の南側の天井が高く、ガラス窓から採光が多く入り解放感がある。畳の間があり座椅子に座り、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるような空間作りがなされ、家庭的な雰囲気がある。壁には書道が掲示され利用者一人ひとりの価値観が大切にされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人ひとりのいつもの定位置があり入居者様同士での活動や会話が弾んだ際にはその場所でコーヒーやおやつを提供している。またそれを行えるようなソファ・テーブル席・畳エリア・ウッドデッキをハード面で用意している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みの物や思い出の品を持って来て頂き、生活パターンに応じたベッドの配置や家具を本人様が居心地良く生活できるよう工夫している。家族が持ってこられた花など居室に飾っている。	居室には自宅で使い慣れたタンスや、馴染みのある人形、家族の写真が飾られ、利用者が居心地よく過ごされる工夫がある。利用者の好みによりベッド、畳での生活を選択することができ、その人らしい生活が送れるよ取り組まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のネームプレートや各場所の名称を掲示することで行動がスムーズになっている。入居者様一人ひとりの生活スタイルに合わせて車椅子やシルバーカー、手すり等を活用する事で、残存機能を活かした生活が出来るよう工夫している。又、常日頃から事故に繋がるリスクを考えながら環境整備を行う事で、安全に生活して頂けるよう取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が共有できるよう理念・実践キーワード・今月の目標を掲げ、毎朝申し送り時に唱和を行い、入居者様の尊厳を守り、安心、安全な生活が送れるよう心掛けている。また毎月のミーティングで今月の目標を話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、案内による公民館行事や地域の行事にも参加している。また地域の広報誌を届けて頂いている。保育園や小学校の慰問、中学校の職場体験の受入れなど積極的に行い年々交流を深めている。二年に一度、夏まつりを行いポスターを地域施設に貼らせて頂き、地域の方へ案内して参加を呼びかけ交流に努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の介護実践の在り方をご家族や地域の方々へ絶やす事なく発信し続ける為、ホームページの開設や季節ごとの新聞を発行している。幼稚園、小学校の慰問、中学校、専門学校の実習やボランティア活動などの受入れも行っている。地域の自治会活動の案内を受け参加の機会を保っている。又、役場のイベントホールでの作品展に貼り絵を出品させて頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各々の立場で真剣に会議に向き合い、お茶を飲みながら和気あいあいと1時間半を過ぎて頂いている。議題に委員様からひと言という項目を設けたところ、より活発にお話が聞けるようになった。委員様それぞれの立場からの活発なご意見を頂いている。最近ではボランティアの紹介を頂き苑への訪問がなくなった。平成27年度報酬改定に伴い小規模多機能型居宅介護での外部評価に於いて運営推進会議及び委員様をこれまでの評価機構と位置づけることが決定し早速実施に向け取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と利用者様の情報や部屋の空き状況を報告している。またケアマネ連絡会などで情報交換を行っている。運営推進会議や市町村に出向いたときに相談事したりして情報収集を行いサービスの質の向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お一人おひとりの身体能力、認知度、更には心理的問題行動に対応する為、身体拘束をしない事を前提とした介護支援を徹底している。その為には担当者を中心とした見守り、情報の共有、コミュニケーションを絶やさず行う事や定期的なミーティングでは、状態変化に伴うリスクマネジメントに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日常的な関わりのなかで虐待に繋がるような言動など職員同士で注意し未然に防げるよう努めている。また定期的に苑内勉強会で虐待防止と周知徹底を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑ではまだ実例はないが苑内勉強会や研修参加にて権利擁護・成年後見制度に関する理解に努めている。またいつ相談があってもいようパンフレットを常備している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を一つ一つ分かりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されたか確認を行い、納得された上で同意が得られるよう努めている。又、やむを得ず利用料の変更に至った時は、お手紙にて説明と同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からは面会時など常日頃から意見や要望がないか伺い、意見や要望の内容を会議にて検討し、出来る限り運営に反映させる事ができるよう努めている。又、重要事項説明書に外部の相談窓口を記載しており、契約時に説明している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職者会議によって討議し、議題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行う。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使うべく隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行うことによりマンネリ化しないリズミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上に繋げている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則にのっとった健全な運営に努めている。例えば勤務の中に各自希望の研修や有休が取れる人員配置をし、なお処遇改善交付金の活用、水準を下回らない給与、ボーナスに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用に当たっては経験と意欲を最重要視している。新人職員に対しては各棟の新人研修要綱に添って介護責任者を中心に担当者が指導にあたり、1ヶ月程度で一般業務から利用者様の個別対応まで細かに伝えるOJT、常に現状に即した要綱を会議で検討し、フレッシュな内容に心がけ、研修を繰り返しながら周知を行うoffOJTを支援して能力開発に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人権教育、啓発活動における介護の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修としては円滑な業務のために必要と思われる研修を定め、月1回の全体会議の中で行う。又、専門講師を招いて1時間程度の研修会を年に数回計画している。一方苑外研修としては年間を通じ個人の希望と勤務に応じた研修と全職員が受ける事のできるシステムを確立している。受講者は1週間以内にレポートを書き、全体会議で発表する。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは個別に相互の相談、アドバイスをし連携を保っている。ケアマネジャー連絡会ではそれぞれの他事業所を訪問し実状を見学し質疑応答の場が設けられ活発な討議がなされている。また代表者は近隣の同郷代表者と交流する機会を保っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用される前に必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安なことなどあるかどうか、また、本人様の要望等を伺い、情報収集を行っている。お困り事や不安な事に関しては、お話をゆっくり傾聴し、受容する事で安心して頂く事ができるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来苑時、ご家族からこれまでの生活歴や家庭での状態、思いや希望等を伺い、よりよい信頼関係が築けるよう職員間で十分に検討し、出来る限り思いや希望に沿ったサービス提供ができるように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	相談があった時、本人様やご家族の意向や ニーズをよく伺い、“今一番に求められる サービスは何なのか”を見極め、小規模多機 能型居宅介護サービスの利用なども含めて対 応するよう心掛けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は日々の生活の中でお互いに 喜び学びあっている。レクリエーションでは 歌やことわざなど楽しめたり個別対応でパ ズルを一緒にして完成の喜びを分かち合っ ている。また苑外散歩では周りの田んぼの米や 麦の生育経過を教えて頂いたり季節を共感し ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご家族宛に毎月入居者様の苑での様子を書い たお手紙を請求書と一緒に同封し、バスハイ クや朝日苑祭りなどのいろんな行事に参加し て頂くよう案内状にて参加をお願いし共に本 人様を支えて行く関係に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	お寺の住職様より月命日にお参りに来て頂い たり、友人、知人の方が面会に来られてい る。又、家族と共に墓参りへ出掛けられたり 、遠方に在住してあるご家族様（息子）か らのお手紙・電話等、交流が途切れないよう に支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの表情やその日の状態に 合わせてレクリエーションや個別会話等、楽 しんで頂けるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡し、 本人様の経過を伺ったり、面会に行ったりす ることで関係が途切れないよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりと言葉や表情から入居者様の思いや希望・意向をくみ取り、その方の過ごしやすい状況を作れるよう努めている。又、意思疎通が困難な入居者様はご家族などに尋ね情報収集に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れていて、過去、現在の状態を把握するよう努めている。一人ひとりの暮らしぶりが理解できるようその人に合ったサービスを見つけ、職員と入居者様との信頼関係を築きながら暮らしを捉えていくよう心掛けている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの一日の暮らし方や生活のリズムを理解すると共に、安心と安全を保ちながらその人らしく生活して頂けるよう努めている。出来ないことより出来ることに注目し知り得た情報は申し送りやミーティングで話し合い職員全体で共有して統一した個別のケア内容を把握できるよう取り組んでいる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービス内容に反映させるよう努めている。又、カンファレンスで本人様にとって今、必要な事は何かを検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画の作成ができるよう心掛けている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事により統一したケアを提供できるよう努めている。又、個人記録やケアプラン実行表を基に、介護計画の見直しや評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又、本人様やご家族の要望に応じて通院時の送迎や買物支援等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑の近くにはスーパーがあり、時々お買い物にお連れしている。地域公民館行事のグランドゴルフに参加されたり消防署との防火訓練に参加連携している。毎年恒例の保育園・小学校の慰問や中学校の職場体験、訪問歯科・訪問利美容、イチゴ狩り、ピアノコンサートなどを通して、地域資源の協働に心がけ、豊かな暮らしを過ごして頂けるよう努めている。また地域の自治会に加入し広報誌を届けてもらっている。またボランティアへの協力を呼びかけ来苑して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の関わりの中での気づきや変化で受診が必要となる時、本人様・ご家族の希望される医療機関が受けられるよう、かかりつけ医への情報提供や円滑な受診・往診が出来るよう支援している。またご家族様への日常生活での状態報告を行いご家族との関係を築き意見・要望を尋ね、受診介助が必要な場合は受診支援も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ心身状態の変化や毎日のバイタル測定等での変化や疑問・気づきがあればその都度、看護師へ報告し必要に応じてご家族やかかりつけ医へ相談・報告し、必要時は受診支援も行っている。状態変化時の連絡体制も整っており円滑な支援が出来るよう努めている。夜間の異常にも応じられるようオンコール体制をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行ったり、面会に伺う等して状態把握に努めている。又、退院時には、ご家族や病院と連絡を取り合い、速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケア・看取り介護について苑で出来る対応をかかりつけ医よりご家族様へ説明し、本人様やご家族様の意向を大切に、かかりつけ医・管理者・ケアマネ・看護師・職員・ご家族様・本人との話し合いを行い方針を決め、共有したケアで安心した日々をより良く過ごして頂けるよう支援している。また状態変化の度に意向を再確認している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時はマニュアルに沿って医師・看護師・職員間での連絡体制が出来ている。又、苑内勉強会や消防署主催の救急手当・蘇生技術等の研修や知識向上の研修にも参加し、実際の現場で活かせるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員の少ない夜間想定で年2回行い、火元は当日、消防署員様より設定して頂き訓練後は消防署員より講評を頂き確実な避難誘導が出来るよう取り組んでいる。当事業所のみの災害時には地域の公民館を一時避難所として協力を得ている。避難訓練の際には運営推進会議や地域の方にも声掛けし参加や見学を促している。自家発電機や食料・飲料水を準備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の日々の訴えや希望・問題点などミーティングや申し送りノートにて一人ひとりに応じた関わり方や充実した生活を送れるよう職員間で話し合っている。親しみのある言葉や方言、名前は姓で呼ぶようにしており失礼な言葉掛けにならないように注意している。また苑内勉強会や外部研修参加にて職員の意識向上にも努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が希望される食べ物を提供したり、音楽が聴きたい方には好きな曲を選んでもらったりしている。新聞や飲み物など本人様の希望で提供している。また意思表示が困難な方には表情を読み取って反応をみながら支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースに合わせ、散歩・洗濯物たたみ・トイレ拭き・おわん拭きなど希望されることをされ好きな新聞やテレビを観られたり、ウォーターベット使用される方もおられる。また居室で休まれる方もおられ好きなように過ごして頂いている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理美容があり希望される方は髪を切られる方、染められる方がいる。ひげそりをされる方は見守りし、できない方にはひげそりをしている。季節に合わせた衣服を本人様好みで選んで頂いたり化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の苦手なものなどを把握し別メニューで対応したり、状態や体調に合わせた食事形態で提供している。楽しく美味しく食事が出来るよう献立などの会話をしたり、食前には嚥下体操を行っている。職員も同じテーブルに着き、揃って食事を食べ始め、音楽をかけたり会話を楽しみながら同じ食事を頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は個々に合わせた量を提供し、副食は入居者様に合った食べやすい器で提供している。水分チェック表を作成し1日1,500mlを目標にして少ない方には嗜好物を取り入れ水分確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをし、一人ひとりの能力に応じた支援を行い緑茶でのうがいを実施している。夕食後には義歯洗浄剤での清潔保持に努めている。また希望時や異常があった場合は訪問歯科を受診されている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を軽減する為にその方の頻度や排泄パターンに合わせて定時の声掛けや誘導を行っている。夜間オムツを使用している方でも日中は排泄パターンに合わせてトイレの声掛けを行い、できる限りトイレでの排泄を促している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄・食事・水分摂取量等のチェックを行い、排泄習慣を把握し、自然排便を促すためラジオ体操や散歩など身体を動かす機会を多く持てるよう心掛けている。また食事には野菜、穀物、果物等の食物繊維が多く含まれる食品を取り入れ、必要時には医師へ相談し便秘予防にも努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴表を作成しており週3回以上は入浴できるよう声掛けし、清潔保持に努めている。気持ちよく入浴できるように一人ひとりお湯を入れ替えている。本人様の体調や希望に沿い拒否が見られる場合は時間を於いて声掛けしたり清拭を行っている。入居者様の状態に合わせて併設小規模多機能型居宅介護の機械浴も利用している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの状態や希望に応じて昼食後に居室へ戻られ昼寝されたり、食堂でテレビを見てゆっくり過ごされている。又、夜間安眠できるように日中、散歩やレクリエーションなどを行い、安心して休んで頂けるよう照明・室温・寝具にも配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報により用法・用量・目的・副作用等の情報をいつでも確認できるよう綴っている。また誤薬や飲み忘れがない様一包化して頂き日付・氏名・服用時を表記して準備時・配布時の確認と声を出して読み誤薬防止に努めている。確実な服薬で日常の状態変化を把握し必要時には報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。本人希望により嗜好品を購入され好きな時に居室でも食べて頂いている。又、レクリエーションや天候の良い時は苑外を散歩する等して気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時は気分転換も兼ね、歩きの方・車椅子の方、いずれも苑の周りの散歩に出かけている。要望に応じたお買い物や花見を兼ねたドライブなども出来る限りお連れしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方は自分で管理して頂いている。勘違いや物忘れもありその管理に苦労することもある。ご家族の協力をお願いしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から本人様に電話があった場合は本人と直接話されたり、入居者様から電話をかけて欲しいとの希望があった時は取り次いでいる。又、ご家族から手紙が届いた時は本人様に手渡し、読んで欲しいとの希望があれば読んで内容を伝えたり支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者様が一緒に作った貼り絵など季節を通してそのときに合った物を飾り、毎月の行事の写真などを掲示している。建物には二重ガラスを用いている。高気密換気システムにより温度・湿度・臭いのコントロールを行っており快適な室内環境になっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル、フロアのソファなど入居者様が好きな所で過ごし、入居者様同士が話したりと自由に過ごして頂ける場所になっている。また、畳スペースも設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にクローゼットが備え付けてある。居室には本人様が慣れ親しんでおられたテーブル・椅子・テレビ・仏壇など持参された物を使いやすいように設置し、本人様が過ごしやすい居室の配慮を行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており廊下やトイレ、浴室に手すりを設置している。歩行の不安定な入居者様でも付き添い安心して歩ける環境になっている。手すりを使用し立ち上がりなど機能訓練を行っている。トイレや廊下など自動で電灯が点灯し危険防止にも努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
			○	③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない